

「こんな悲しいことはない」

あずかっている生徒が、事故で亡くなるという、こんな悲しいことはありません。

本校3年生がバイク事故で亡くなりました。

相手方の優先妨害の可能性があるとのことですが、それでも亡くなったことになんら変わりありません。

何故、防げなかったのか？スピードは出てなかったのか？バイクを所持していなければ・・・大きなバイクでなければ・・・我々のこれまでの安全教育では彼の心に響いてなかったのか？・・・色々と思いが巡ります。

病院に駆けつけ、ICUで家族が声をかけている姿が目に焼き付いています。

生徒指導部、担任、科主任の迅速な対応にも感謝しております。ありがとうございます。

今回の件は、指導部だけの問題ではありません。今後に向けて、学校全体の各部署で何らかの対応ができないか考えて下さい。

各部連携して

- クラスの生徒のショックや動揺はかなりのものがあります。彼らのケアを担当を支える形で学年会、生徒指導部、専門科、教育相談係が連携をとりバックアップして下さい。

全HR担任を中心に

- お亡くなりになった生徒の冥福を全生徒で祈って欲しい
- 何故、事故が起こったのかを生徒ともに考える機会をつくって下さい
- 事故を防ぐ手立てはないか学級で考えて下さい
- 三者面談で交通安全教育の徹底を保護者へお願いして下さい(緊急メッセージの配布)

各部連携して

交通安全教育の再点検と充実

- ①交通安全の緊急メッセージを出す(三者面談に配布)
- ②ゴールデンウィーク前に全体集会を持ち安全指導を行う
- ③交通安全講話等の内容の充実を図る

これまでも、軽傷事故は数件あったということですが、「大事に至らなくて良かった」で終わってなかったのか、「もしかすると重大事故に繋がるかもしれない」との考えで取り組みがなされていたか、皆で考える必要があります(先日のハインリッヒ、バードの法則)。今回の件を受けて、次も重大事故が起こるかもしれないとの、危機感が大事です。

全職員が

- ヒヤリ・ハットの先に軽傷事故があり、軽傷事故が数件あると大事故が待っているかもしれないという危機感を持って対応してほしい。また対応できていたか検証してほしい

今回の件を含めて学校全体で安全教育・施設の管理を含めてチャックしてほしい。

全職員が

- 交通安全対策の再点検
- 実習場・産振棟の再点検
- 実験、実習における器具・機器の取扱と安全指導
- 教室における落下・転落防止対策
- プールの管理
- 体育指導における安全指導
- 部活動における安全指導
- 部室の管理
- 教職員自身の交通安全・・・

また、点検をしてみると言っても、我々が、不安定な状態・不安全な状態をスルーしていなかったか、見逃してなかったか？もう一度アンテナを高く、感度良く、目をこらして見る必要があります。

危機的状況ほど学校の結束力が問われます。チーム北農で知恵を出し合い、議論し合い、取り組んでいきましょう！

先生方の頑張りに期待します！